

教育課程編成委員会

記録者 高橋正行

1. 日時 令和4年5月25日(火) 17:00～19:00
2. 場所 新館5A教室
3. 出席者 内部委員（敬称略） 工藤佑輝、池田昌央、阿見芳明、境田三由紀、星野丈二、高橋正行
外部委員（敬称略） 吉田三晃、吉田昌央、石井孝治、竹野内宏明、堀口麻里、永井良幸、石川真樹

【全体会（17:00～17:30）】

1. 開会挨拶（校長）

全学科が職業実践専門課程に認定されている本校にとって、学校の内部環境や運営のあり方を検証することは不可欠である。

教育課程編成委員会の活動はまさにその中核をなすものであり、その活動結果が、本年度の学校運営の基本方針である「教育の質保証」に直結していると考えている。

また、学生が自ら立てた将来像の実現に向けて主体的に学びを継続する仕組みやそのための学修支援の仕組みを構築することも必須である。

資格取得が主要な教育目的ではなく、実社会で活躍する人材育成を目的としたカリキュラム開発にむけ、忌憚のないご意見を頂戴戴きたい。

【分科会（17:40～19:00）】

1. 令和3年度カリキュラムの振り返り：各役職者

- (1) 令和4年度の各学科教育方針の説明
- (2) カリキュラム改善に向けての意見交換

■理容科

池田委員：時流に乗っているサロンでのシェービングの現状を聞きたい。シェービング実習授業の再構築に向けた参考としたい。

吉田(昌)委員：新しいメニューを開発しているサロンが数多ある。

- ・シェービング×ネイルケア→ 剃るネイル
- ・シェービング×ヘッドスパ→ シェスパ ～寝る・癒す・磨く～
- ・レディースシェービング→（パーツシェービング、ブライダルシェービング）
- ・メンズシェービング→（グルーミング、メイク男子）

ジェンダーレス化している世の中の背景を踏まえて実習授業を再構築していくことが妥当と考える。

池田委員：シェービングの技術的価値を高めるため、長期的な視野で考えてカリキュラム構築とシラバス作成を進めたい。

吉田（三）委員：在学中に美剃師検定中級を取得して活躍している卒業生（業界人）を招き、意見を募るのはいかがでしょうか。
もう 50 人以上は該当者がいる筈なので、参考になる話を聞けると思う。

■美容科

阿見委員：近年の学生の一般的傾向として、自身の将来を漫然と考えているように感じる。
そこで、自分の仕事の目標と計画を考える力を養うことを目的に、今年度は『キャリア教育』に力を入れてこうと考えている。ご意見を伺いたい。

石井委員：1 年次の 9～10 月ごろの時間割が間延びしているように思われる。この時期こそ就職について考え始める時期だと思うので、「信用と信頼」「セルフブランディング～自分の価値の高め方～」「タイムマネジメント～時間管理術～」「社会人としてのマインドセット」などの授業、を業界と連携した授業とするのはどうだろうか。業界人講師とのディスカッション形式もおもしろいと思う。

竹野内委員：私の担当する授業では、技術だけではなく『キャリアプランニング』の話も盛り込んで、学生たちの意識を高めていきたい。

■ビューティーアーティスト科

星野委員：令和 4 年度の基本方針は「教育レベルの向上」「教育の質保証」である。ご意見を伺いたい。

石川委員：各種検定の合格率は、今のところ学校全体としての結果で表記されている。そこで、B A 科の数字（個別）として明確にし、評価を学生と職員と講師たちとで共有したらどうだろうか。

また、希望者のみの受験形態が、クラス内のモチベーションや取り組む熱意に差を生む原因となっていないかが心配しているところである。

星野委員：学校全体として新たに検定委員会を設け、学生たちの主体的な学びを促す方法を模索している。

石川委員：希望者のみの受験という形態を前提に、学生の意欲、自己学習の時間、指導・支援する教職員の負担などを総合的に勘案し、各種検定試験に向けた学生の動機づけの方法を検討していきたい。また、100%合格を達成するためには、学生と教職員と間の信頼関係が極めて重要であると考え。形式的・表面的な授業展開とならないよう、配慮していきたい。

■ビジネス美容科

境田委員：企業が学生に求めるスキルを具体的に教えていただきたい。

永井委員：在学中であろうと、現役のエステティシャンに近いレベルの立ち居振舞いや所作、接客を望んでいる。とはいえ、お客様を目の当たりにしている訳でもないの、緊張感もない授業中にそれを実践することは無理な話だろうとも理解している。

堀口委員：就職すれば、4 月の出勤初日から“挨拶や言葉遣い、返事、話の聞き方”などの基本的なビジネスマナーを発揮しなければならない。また、スタッフとの協調性あるいは

コミュニケーション能力も必要である。学生たちに伝えたいことは、エステティックの業界では、新人でも高いレベルの接客を求められるし、組織の一員として貢献できる人材であってほしいと期待している。

以上